

オンライン上での上手なコミュニケーション ～デジタルシティズンシップ教育の実践より～

【内容】オンライン上で自分の気持ちを上手に伝える方法を具体的に考える。

【使用アプリ】ロイロノート、Classroom

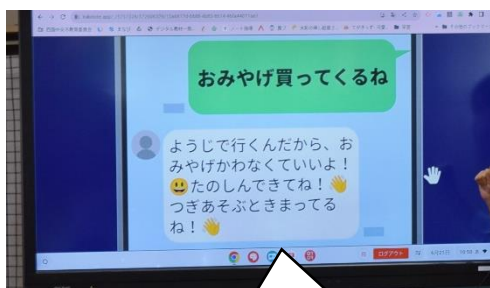
【事例紹介】

○ オンライン上でのコミュニケーションを疑似体験！（第1時）

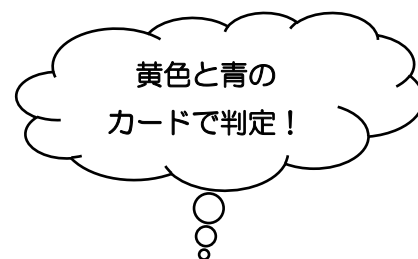
第1時では、Classroomのチャット機能を利用してオンライン上でのコミュニケーションを体験した。この活動を通して、児童からは、「離れていても繋がれる。」「後で読み返せる。」などの肯定的な意見がたくさん出た。一方で、「やり取りのスピードが速くてついていくのが大変だった。」「気持ちがうまく伝えられない。」などの課題が見えてきた。

○ どうすれば気持ちがうまく伝わるかな？（第2時）

第2時では、具体的事例を用いて、上手に伝える方法を考える活動を行った。前時で挙げた課題を解決するために、「立ち止まる」「考える」「相談する」の3つのポイントを意識して、具体的にどのように伝えるかを考え、ロイロノートで共有した。児童からは、「言葉を付け加えて詳しく書く。」「絵文字で気持ちを表現する。」「送る前に一度読み返す。」などの工夫が意見として挙げられた。



絵文字が入っていて気持ちが伝わりやすいね！



【終わりに】

デジタル機器がなくてはならない社会で、子どもたちがより善い使い手として活躍できるよう、今後も研修を重ねながらデジタルシティズンシップ教育を効果的に進めたい。

☆教育委員会指導主事より☆

デジタルでお互いの思いを上手に伝え合うための具体的なスキルについて考える授業の報告です。この授業では、小学4年生の生活経験の差を埋めるため、Classroomを使って疑似的にチャットを体験しています。この工夫によってオンラインの利便性を実感するとともに、その課題を自分たちで見つけ出すことができています。また、同じメッセージから受ける印象もそれぞれ違って、それらを共有することは他者の多様な価値観に触れる良い機会になったのではないのでしょうか。情報活用能力の育成に向けてこれからも継続的な取組をお願いします。